

横山大観展

海老澤秀美

横山大観の生誕 150 年、没後 60 年を記念して開催された、横山大観展を東京国立近代美術館に観にいきました。

竹橋駅に降り立つと、駅構内の改札を出たところに臨時チケット売り場があり、そこでチケットを購入しました。東京国立近代美術館のチケット売り場は長蛇の列になっていたのので、駅でチケットを買っておいて正解でした。チケットを買った後も入場のためには、また 50 名ほどの列に並ぶ必要がありました。

展示されている作品数は 90 点にも及び、とても見ごたえのある展示でしたが、特に印象深いのは、日本一長いとされる画卷で、重要文化財である『生々流転』です。この『生々流転』だけは、最前列で見るためには、もう一度長蛇の列に並ばなければいけませんでした。私は並ぶのが大変だったので後ろの方から見ましたが、墨一色で、あるところはおおらかに、あるところは細やかに表現された自然に、並々ならぬ精神力とエネルギーを感じました。

国立近代美術館での展示は 5 月 27 日で終了してしまいましたが、6 月 8 日から 7 月 22 日は京都国立近代美術館で同展示が開催されています。京都まで足を運ぶことの難しい方には、上野にある横山大観記念館をお勧めします。横山大観の旧宅で、大観の作品や大観の所持していたコレクションなどをガラスケースなしで見ることができるので、横山大観展を見逃した方も、そうでない方も、大観の見た景色と一緒に日本美術を楽しんでみてはいかがでしょうか。